

財団法人 日本産業技能教習協会
平成18年度事業報告書

平成18年 4月 1日 ～ 平成19年 3月31日

I. 事業概要

技能講習実施 種目別実績

	講習名	18年実績 (回、人) 平均	17年実績 (回、人) 平均	対前年 (%)
1	フォークリフト運転技能講習	27回 479人 平均18人	27回 495人 平均18人	97
2	車両系建設機械運転技能講習 (整地・運搬・積込及び掘削用)	11回 56人 平均5人	13回 98人 平均8人	57
3	車両系建設機械運転技能講習 (解体用)	4回 12人 平均3人	6回 22人 平均4人	55
4	玉掛技能講習	15回 437人 平均29人	17回 446人 平均26人	98
5	小型移動式クレーン運転技能講習	14回 157人 平均11人	15回 172人 平均11人	91
6	ショベルローダ運転技能講習	6回 19人 平均3人	6回 23人 平均4人	83
7	ガス溶接技能講習	10回 239人 平均24人	12回 157人 平均13人	152
8	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習	7回 376人 平均54人	6回 222人 平均37人	169
9	建築物等の鉄骨の組立て等作業主任者技能講習	6回 100人 平均17人	4回 32人 平均8人	313
10	地山の掘削及び土止め支保工作業主任者 技能講習	11回 186人 平均17人	12回 156人 平均13人	119
11	足場の組立て等作業主任者技能講習	13回 427人 平均33人	12回 287人 平均24人	149
12	型枠支保工作業主任者技能講習	6回 106人 平均18人	6回 99人 平均17人	107
	合計	2594人	2209人	117

技能講習の受講者数を見ると、昨年度よりトータルで300人の増加となっているが、講習収入は増えていない。(平成17年度の4357万円に比べ、本年度は4333万円)

これは、各種目毎の受講者推移の違いによる。単価の高い、実技講習を伴う講習の受講生が大幅に減り(車両系建設機械運転の場合、6割未満となっている)、単価の安い作業主任者講習の受講生は大幅に増加した。原因となる要素はいくつかあるが、適切な対策をとらない限り、この傾向は持続すると思われる。

講習収入が増加しない限り、事業運営の厳しい局面が続く。

II. 重点活動

18年度事業計画を立てる際に重点活動とした項目について報告する。

組織体制の整備：人事の変動等もあり、目標としたとおりの作業は行なえなかった。

具体的方策としてあげた事務処理に関わる事項の整備としても、役職員間での検討をはじめた段階であり、文書化した規程を作成するまでにはいたっていない。

整備を進めるにあたっては、ルールを明確に文書化する事が必要不可欠である。

今後、引き続いての改善を継続する。

組織体制の整備について、本年度に実現できた主な事柄を列記する。

寄附行為改正(平成18年6月理事会にて議決、変更申請、平成19年6月認可)

職員連絡会議の開催(平成18年10月より。3ヶ月に1度、全職員10名での意見交換)

講習事業の内容充実：ほぼ計画とおりの結果を実現できた。

具体的方策として挙げた、技能講習修了証の統合カード化について、平成19年4月からの切り替えが完了した。当初計画どおり、偽造防止技術の導入もでき、作業軽減の効果も出ている。今後は、運用方法に改善を加え、システム障害等への対処を強化したい。

講師連絡会議については、開催回数は1回であったが、講習方法の改善に関わる意見交換ができ、有意義なものとなった。

III. 庶務事項、その他

18年度の事業運営における庶務事項、その他について報告する。

理事長逝去：昭和55年からの長きにわたり、当協会理事長として協会事業の運営を一手に担ってきた青木勇一氏が平成18年8月23日永眠された(享年68歳)。青木氏は協会設立時よりの要職にありながら、晩年体調を崩すまで、自ら講習講師としても一線で活躍し、部下だけでなく多くの受講生からも敬愛されていた。ここに謹んでご冥福をお祈りします。